

岡山県青年会会報

発行者 岡山県青年会
編集 公益財団法人備中館

岡山県青年会学生幹事長挨拶
学生幹事長 大向正倫



岡山県青年会は東京に居住する岡山県出身者の大学生を対象とする通常会員とご支援くださる特別会員で構成されている会です。

運営にあたっては、都内に設置されている岡山県出身者のための4つの学生寮、育英会東京寮、精義塾、備中館、鶴山館の学生が中心となって進めています。4寮は、野球大会・フットサル大会・青年会総会・岡山県人会等の交流を通し、互いに切磋琢磨し、各々の道に向かい大学生生活を有意義に謳歌しております。

また、岡山県青年会を通じ、岡山ゆかりの各界でご活躍の方々や世代を超えた深い交流をさせていただくなど様々な経験により多くのことを学ばせていただいております。この貴重な経験も郷土の先

輩方のこれまでの弛まぬ努力のおかげであり、学生一同感謝しております。

4つの学生寮は、その全てが学生自身が主体となって寮を運営している学生自治寮で、学生が話し合っ自分たちの規則や行事を作り、より良き寮になるように議論し寮を作っていくものであります。

しかし、今日の学生寮を取り巻く環境は非常に厳しいものであると感じられます。伝統的な学生寮に入寮を希望する学生が減少するとともに、寮生の中にも一部、寮生活に対する無関心かつ自治活動への参加に対する消極的な姿勢がみられます。寮を担うものが組織を愛する気風というものを育て上げるべきであり、気風を育て、広く浸透させることが必要であると思えます。

また、通常会員のほとんどが四寮の在籍者であり、寮以外からの一般学生が非常に少なく、学生会員の裾野を広げることが、私が幹事長として最も取り組んでいこうと思っている課題です。岡山県に関わりのある在京の学生は全て青年会活動へ参加することができます。しかし、4寮の学生しかその存在すら知らないというのが現状です。青年会という貴重な経験は、岡山県のこれまでの発展と

郷土の先輩方の弛まぬ努力の上に成り立つものでありますから、私たちに享受される恩恵を次世代にも残すためにも県人ネットワークをさらに充実させるべく、寮生以外の学生へも活動に参加してもらえるよう、学生個人個人から一人一人にアプローチをかけることが求められると思います。論ずるだけでなく積極的に動いていこうと思えます。

以上、岡山県青年会へのつる思案を述べさせていただきました。今後とも支えていただいている諸先輩の皆様にはご迷惑をおかけすることもありますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新入生と卒業生の状況

平成28年3月には、思い出の詰まった寮から22人の学生が巣立って行きました。一人ひとりが、寮で過ごし学んだことを活かして、更なる成長を遂げることが祈っています。

4月には、新入生が加わり、10月現在、寮で生活している学生は115人となっております。

異なる価値観を持った学生達が相互の理解を深め、様々な困難や喜びを体験することができるのも寮ならではです。多くの友人と交わり、自己研鑽の場として活用されることを期待します。

■平成27年度 卒業生の状況■

	首都圏	岡山県	その他の地域	計
岡山県育英会東京寮	4人	2人	1人	7人
鶴山館	8人	2人	1人	11人
精義塾	4人	—	—	4人
備中館	1人	—	—	1人
合計	17人	4人	2人	23人

■平成28年度 在寮生の状況（平成28年10月1日現在）■

	1年	2年	3年	4年	大学院	計
岡山県育英会東京寮	7人	13人	12人	6人	6人	44人
鶴山館	11人	15人	6人	5人	—	37人
精義塾	5人	3人	7人	4人	—	19人
備中館	3人	3人	3人	3人	3人	15人
合計	26人	34人	28人	18人	9人	115人



平成27年度 岡山県青年会総会

平成27年12月2日(水)の夕刻、都道府県会館(千代田区平河町)において、各界で御活躍される郷土岡山県出身の諸先輩方にも多数お集まりいただき、岡山県青年会総会を開催しました。

総会は宮原耕治会長(日本郵船(株)相談役)の挨拶で始まり、島村拓巳学生幹事長の挨拶、出席者の紹介、総会議事(事業報告、会計報告など)を行い、全ての議事が承認されました。

引き続き行われた講演会では、「東日本大震災 初動指揮の実際」という題で、国土交通事務次官の徳山日出男氏(岡山市出身)から、御講演をいただきました。

震災発生時、東北地方整備局長として初動指揮にあたった経験から、「実際の大災害は、半日、1日の訓練とは異なり、長期にわたって食料をどうするか、家族をどうするか等考える必要があるが、これまでの我々のマニュアルにはその視点が欠けていた。今後起こるであろう南海トラフ地震に備えるため、燃料は何日にどれだけ使い、食料をどのように調達したのか等初動対応の記録を『災害初動期指揮心得』にまとめた。」と紹介されました。また、「岡山は、自然災害の少ない地域という認識があるだろうが、地震

に限らず、危機管理は誰にでも、どこにいても必要なことであり、常に最悪を想定して準備することが重要である。」と先の震災から得た教訓を語っていただきました。

講演後、学生を代表して、島村学生幹事長が、「一刻も早い輸送手段の確保が求められる中、瓦礫に埋まった方へ配慮しながら、4日後には約95%の基幹道路を再開し自衛隊が通行できるようにしたことに驚いた。」と感想を述べるとともに、「故郷を離れた東京で、私たち後輩のために、足を運びこれまでの経験を語ってくださる先輩がいることを大変心強く感じている。我々が新しい道を切り開くため、積極的に先人達の歩みを辿り、教訓を得ていきたい。」と力強く抱負を述べました。

その後、行われた懇親会では、木畑洋一副会長(成城大学教授)の挨拶の後、三宅文男副会長(元清水建設(株)代表取締役副社長)の発声で乾杯を行い、食事を挟みながら、先輩方や同輩達と歓談の輪を広げ、親睦や交流を深めました。最後に隅田憲平副会長(NPO法人東京シテイガイドクラブ理事長)による中締めをもって、盛況のうちに総会は終了しました。



国土交通事務次官 徳山日出男氏による講演会



宮原会長挨拶



懇親会の様子



総会の様子

近況報告 岡山県育英会東京寮

東京寮の近況報告をさせていただき
たいと思います。東京寮では今年度、合計
7人の新1年生が入寮してきました。4
月に行われました入寮式においては、1
年生も含めて寮生全員が将来の夢を語り
ました。

6月のはじめには、寮の恒例行事であ
る山手線一周が行われました。今年「も
うやめたほうがいいのではないのか」と
いう意見も出ましたがそこから得られる
達成感は何物にも代えがたい素晴らしい
ものであるということで、今年も例年通
り行われました。今年はいにくの悪天
候で体力的に非常に厳しいものではあり
ましたが、1年生の体力が相当なもので
あったので例年よりおそらく早く終わ
ることができました。やはりこの行事は1
年生と上級生、またそうでなくても寮生
同士の絆を深めることができる素晴らし
い行事の一つであると思うので続いてほ
しいものだと私は感じました。

最近の寮生総会(寮内で行われる会議)
では以前より議論が白熱しているよう
に感じます。最近の大きな改善点として
なんとシャワーを使うことのできる時間
が大幅に延長されました。寮が汚いとい

う点に変わりはありませんが、少しは過
ごしやすい空間になったのではないかと
思います。

3年生 馬場康太



近況報告 鶴山館

鶴山館には「サークル」なるものが存在
します。この度はそのサークルについて紹
介させていただきます。鶴山館のサークル
の趣旨は、何か共通の趣味や目的を持つ人
同士が集まり、共に活動をして交流を深め
ることです。それでは、大学のサークルと
何ら変わらないように思えます。しかし、
鶴山館のサークルには、大学のそれとは大
きく異なる特徴があります。それは、1年
生がそれぞれ、サークルを立ち上げるか先
輩から引き継ぐかして、先輩をそのサーク
ルに勧誘するという点です。寮における先
輩後輩の関係は、先輩から後輩への一方通
行のものが多くながちです。そこで、サー
クルという活動が存在すると、後輩の方か
ら先輩に向けて積極的にコミュニケーション
をとることができるようになります。もち
ろん、同期との親睦も深まります。その
ようにして、先輩・後輩の隔たりなく寮生
同士の交流を深められることが、鶴山館の
サークルの素晴らしきところでは
ないかと感じます。最近の大きな改善点として
なんとシャワーを使うことのできる時間
が大幅に延長されました。寮が汚いとい

具体的活動内容は1年生が自由に決め
られます。例えば、テニスやカラオケ、ゲー
ムや創作など、色々なサークルがあります。
ちなみに私は、「教養を深める会」という
サークルを先輩から引き継ぎました。活動
内容は、気になるニュースや話題の中から

1年生 服部佑樹



近況報告 精義塾

こんにちは。私、岡山県立津山工業高等学校出身で現在、日本大学理工学部土木工学科に在籍している精義塾2年の岡田琢史と申します。上京して早くも2年が過ぎ、精義塾にも後輩が入り楽しく過ごしています。そんな精義塾で一番盛り上がる行事があります。それは、夏旅行です。旅行の道中、塾生全員で各々が作った個性豊かな仮装をし、都内数か所を回り各場所です注という自己紹介をしながら練り歩く、夏の仮装旅行になっています。しかし残念なことに今年は雨が降ってしまい、仮装をして練り歩くことが出来なかったため、代行としてハロウィンに仮装をすることになりました。様々なイベントに出向き、会場を精義塾で盛り上げていきたいと思っています。



仮装は出来ませんでした。今年の旅行は7月9日、10日の1泊2日で行われました。目的地は神奈川県にある三浦半島です。まず三崎港では、何人かのグループに分かれ、昼ご飯を食べに行きました。そこで色々な動植物の観察できる観光スポットにいた。海産物は新鮮で都会で食べるのとは何かが違うと感じました。食後は近くの喫茶店で、おいしいコーヒーを飲み、おしゃべりをしてゆったりと過ごしました。バスでの宿までの道中は、あたり一面田んぼだらけ、岡山の田舎と同じ風景で、すごく親近感が沸きました。夕食は海岸沿いにある倉

で楽しむ行事が他にもたくさんあります。それらの行事一つ一つから個人を成長させ、さらに塾生同士の絆も強固なものになるのです。

2年生 岡田琢史

近況報告 備中館

今年の4月に備中館に入寮した時のことは今でも覚えています。昨年1年間京都で浪人生活を送っていて、せっかく築いた良い人間関係も疎遠となってこの東京にやってきた私はうまくやっていけるかどうか、正直なところ抱いていた不安は大きいものでした。幸いにも親切な先輩方に恵まれて日々充実した生活を送らせていただいています。そのような不安を抱いた入寮から半年が過ぎようとしています。今思えば完全に杞憂でした。

さて今年の夏休み、私は帰省してホテルグランヴィア岡山で開催された備中館OB会に現役館生代表として出席させていただきました。そこでは様々な世代の備中館OBの方々が参加されていて、備中館が学生寮として培ってきた歴史を肌で感

じられ、貴重な経験だったと思っております。OBの方々がお話になる中で私が気づいたことは、どのOBの方も館生時代の話を嬉しそうに楽しそうに話していらっしやることでした。備中館を卒業してからもこのような交流の機会があり、旧交を温めることができるというのも寮生活を送っていくことの大きなメリットであると思います。私もまた一備中館生としてこの歴史を紡ぎ、伝統を受け継いでいくなどと、性にも合わず遠い将来のことを考えた夏でした。

1年生 黒河 匠



育英会東京寮の先輩から

私が東京寮を出て一人暮らしを始めてもう3か月になる。一人暮らしは寮の時のように食事やお風呂の時間が縛られることもなく、どんなに課題が積もっていても笑顔で「呑みましよう」と遊びに来る寮生もいない。自由をたくさん手に入れたが、時々寮の騒がしさが懐かしくて帰りたくなる。そんな私が寮を出て改めて感じたことを(後輩に泣きつかれたこともあり)寄稿させてもらおうと思う。

私は寮に入ろうと思ったのは、家計上寮に入ってもらえるとありがたいということもあったが、安さと食事が出るということが大きかった。寮の外壁がHPの写真では真っ白だが実物がクリーム色に近いのを見て「まあ学生寮なんてこんなものだ」と思ったのも懐かしい。それがいつの間にか、後輩たちに「寮をただの安宿と思わないでくれ」と力説する程寮生活は自分にとって有意義なものだった。寮生活を振り返って思うにこれからの寮生に忘れないでほしいことがある。それは寮が社会にでて集団生活で必要とされることを学ぶ場であるということである。思い出すと寮生活は楽しかったが、それが楽(らく)という意味で楽しかったのではない。上下関係や集団生活での

規律をきちんと守ること、身の回りのことをきちんと一人でできるようにすること。これらをきちんと学んでこそ寮に入った意味があると思っている。特に上下関係など 古い慣習を最近の寮生は無駄と思うかもしれないが、それを学ぶことと自分が無駄なわけではないと僕は思っている。

説教じみた事になってしまったが、貴重な集団生活である寮生活を通じて多くのことを学んでほしいと願っています
森本将弘(平成27年度卒寮)

鶴山館の先輩から

昨年度に鶴山館を卒館した、山本と申します。寮に在籍している間には様々な方々に本当にお世話になりました。現在、社会人1年生として、学生時代とは全く異なる環境の中で悪戦苦闘しているところです。鶴山館での4年間を振り返るならば、自らの人生の方向を決定的に基礎づける貴重な期間であったと今も感謝で一杯です。

さて、今回、鶴山館での暮らしを思い出す貴重な機会を与えていただき、その魅力はどこにあったのであろうかと様々に考えました。鶴山館での濃密な経験を一つの言葉に集約するのは非常に難しい

のですが、敢えて一般論として述べるならば、鶴山館を魅力ある空間にしていたのは、「全員で自由な意思決定を行いながらも一つの運動体としての秩序あるエネルギーを発露し続ける」という奇跡が、綿々と実現されてきているところにあるのではないでしょうか。

この奇跡の背景には、120年以上の歴史の重みを背負いながら、上下関係と友人関係の繊細なバランス感覚を、一つの財産として学生間で伝承し続けている、楽しくも厳しい学生の努力が指摘できると思います。今後とも、鶴山館が、有意義な生活空間であり続けていることを祈念しています。自らもそのOBの一員として、尊敬する先輩方、敬愛する後輩たちに、恥じることなく顔向けできるように、鶴山館での学びを胸に留めながら、努力していきたいと考えています。

山本誠一朗(平成27年度卒寮)

精義塾の先輩から

精義塾に入り、4年間でさまざまな人と出会い、いろいろな刺激を受け、いろいろなことを学んできたが、今年に入ってから急激に自分が変わっていつの間にか感覚を覚えている。これを自分は『あるモード突入した』と呼んでいる。どのよ

うに変化してきているのかというと、感受性が豊かになり、いろいろな人の話を素直に受け入れることができるようになり、吸収できるようになってきたということである。また、人と話しているときに自分の考えが溢れ出し、すらすらと言いたい言葉が出てくるときもある。最近では人から言われたことはまず一度やってみる、なるべく積めるだけの徳は積む、ということを中心に心がけるようになった。

なぜこのような『モード』に突入できたのかを同期と話していると、どうやら危機感が関係しているようであるということがわかった。確かに最近、危機感やプレッシャーを感じる場面が多くあった。しかしそのたびに真剣に悩んで出してきたつもりである。その自分なりの答えを出すという過程の中で、精義塾で生活することによって培ってきた土台を活かし、本当に大事なことは何なのか、今の自分はどうしたいのかということ必死に考えたからこそモードに到達できたのであると思う。あのときは何を言っていたのかよくわからなかった先輩の話も、最近になってようやく理解できたことがたくさんあるし、そのときの言葉が今の自分を救ってくれている。また、このモードに突入する一番最初のきっかけは後輩との話であったように思う。自分とは全

く違う分野に進もうと思っっている彼の話を聞いたときに、自分でも同じことは言えるのではないだろうかという発見があり、そこで自分の中で爆発が起きたのである。クリアにもこの見方が変わった瞬間である。大事なことはいつだってどこだって同じなのだ。

なかなか締めづらくなってしまうたが、何が言いたいかというと結局精義塾はすばらしい集団なのだということである。精義塾サイコーなのである。まだ半年もここで生活できるわけで、先輩たちから学んだことを先輩たちに引き継ぎ、自分としてはまた新たな発見を探し求め、精一杯楽しみつくしていきたいばかりである。

矢野泰地（平成27年度卒塾）

備中館の先輩から

備中館の皆さん、お久しぶりです。この3月に備中館を退館した秋庭です。時間が経過するのは早いもので、あっという間に半年が過ぎてしまいました。寮の庭先においてみんなでバーベキューしながら飲み明かしたことや、秋の寮旅行でスノーボードをしたこと、寮生が丸となって他の県人寮と戦ったフットサル大会など、備中館の楽しかった思い出が

まるでつい最近のことのように思われます。先日備中館を所用で訪れた際にも寮生たちによってバーベキューが行われていて、これからも備中館ではバーベキューが開催され、いつの日か伝統になるのかなと思いました。

現在、私は備中館からそれほど距離が離れていない場所で一人暮らしをしているのですが、ふとした瞬間に備中館での生活を懐かしく思うことがあります。寮に住んでいるときははつきりと自覚できていざせんでしたが、一人暮らしをしてみてもはじめて寮生間の人間関係の貴重さに気付きました。寮に帰ると必ず誰かがいて、他愛のない話をしたり、気軽に飲みに誘ったりできる環境は一人暮らしの中では得難いものです。

現在備中館に在籍している寮生の皆さんは備中館というこの環境の大切さを考えて、有意義にこれからの寮生活を送ってください。

秋庭崇人（平成27年度卒館）



事務局からのお知らせ

■新規会員の募集

岡山県青年会の通常会員は、岡山県出身の学生です。男女は問いません。育英会東京寮、鶴山館、精義塾、備中館に入寮している学生以外の方も、岡山県青年会に入会いただけますので、学校や知人等で入会を希望される学生がおられましたら、事務局までご連絡ください。入会金は不要で、学生の方（通常会員）の年会費は無料です。

■特別会員の方へ維持会費（年会費）納入のお願い

学生寮を巣立っていかれた先輩方や、岡山県出身の学生を応援くださっている方に、特別会員になっていただき、岡山県青年会の運営のご支援をいただいています。特別会員の皆様には、青年会の維持会費（年会費）として一口5千円のご支援を今年もよろしくお願いいたします。

事務局連絡先

〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-6-3
都道府県会館 10 階
岡山県東京事務所
岡山県青年会事務局
TEL:03-5212-9080
FAX:03-5212-9083
メール: seinenkai@pref.okayama.jp

岡山県	育英会東京寮	〒108-0074 東京都港区高輪 3-14-21 TEL:03-3441-3195 【HP】 http://www.okayama-ikueikai.jimusho.jp/ryo01.htm	鶴山館
	精義塾	〒112-0006 東京都文京区小日向 1-21-13 TEL:03-3947-6565 【HP】 http://www.seigijuku.org/	
		学生寮の問い合わせ先	
		〒202-0013 東京都西東京市中町 5-10-8 TEL:0424-22-5951 【HP】 http://park19.wakwak.com/~kakuzan/	
		〒112-0001 東京都文京区白山 4-8-4 TEL:03-3947-1549 【HP】 http:// 備中館.jp/	